

方法書に係る調査手法について（概要）

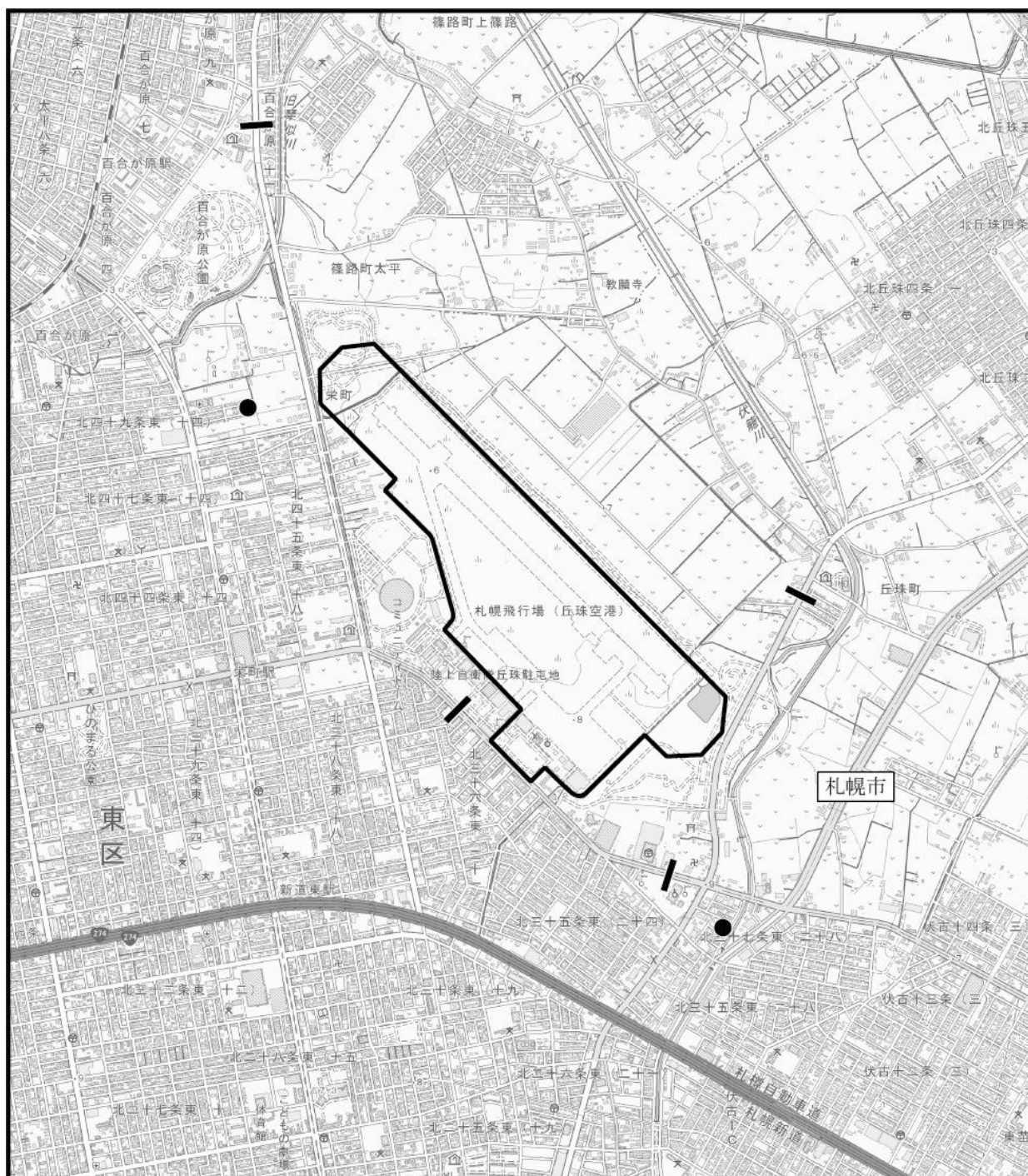
方法書において選定する予定の環境影響評価項目について、選定事項の特性、事業の特性及び影響想定地域の概況を踏まえて、本事業に係る調査手法を選定しました。各環境影響評価項目における現地調査の内容（概要）は、以下に示すとおりです。（※調査地域・地点の詳細は、P.4以降の図（配慮書抜粋）を参照）

なお、このほか既存の調査資料を収集・整理・解析する方法による調査を実施します。詳細は「札幌飛行場滑走路延長事業 計画段階環境配慮書」の「第6章 方法書に係る調査手法」をご確認ください。

調査内容		調査方法	調査地域・地点	調査期間・時期
大気質	二酸化窒素	「二酸化窒素に係る環境基準について」に定める方法	一般環境2地点 道路沿道4地点	年4回（四季） 各7日間
	粉じん	降下ばいじん計（ダストジャー法等）による試料の捕集及び分析による方法	〃	年4回（四季） 各1カ月間
	浮遊粒子状物質	「大気汚染に係る環境基準について」に定める方法	〃	年4回（四季） 各7日間
	風向・風速、 気温・湿度	「地上気象観測指針」に定める方法	〃	年4回（四季） 各7日間
	道路の状況	道路断面構造、規制速度、沿道の状況を記録する方法	道路沿道4地点 （「二酸化窒素-道路沿道」に同じ）	適切かつ効果的に 把握できる時期
	交通量の状況	数取計で車種別・上下線方向別の毎時間交通量、平均走行速度を記録する方法	〃	通常的な平日及び 休日の各1日24時間連続
騒音	環境騒音	「騒音に係る環境基準について」及び「環境騒音の表示・測定方法」に定める方法	4 地点	通常的な平日の1 日24時間連続
	道路交通騒音	「騒音に係る環境基準について」及び「環境騒音の表示・測定方法」に定める方法	4 地点 （「二酸化窒素-道路沿道」に同じ）	通常的な平日及び 休日の各1日24時間連続
	航空機騒音 ※札幌市から提供	「航空機騒音に係る環境基準について」に定める方法	12地点	年2回（夏冬） 各7日間
	道路の状況	「大気質」に同じ		
	交通量の状況	「大気質」に同じ		
振動	環境振動	「振動規制法施行規則別表第一」及び「振動レベル測定方法」に定める方法	4 地点	通常的な平日の1 日24時間連続
	道路交通振動	「振動規制法施行規則別表第二」及び「振動レベル測定方法」に定める方法	4 地点 （「二酸化窒素-道路沿道」に同じ）	通常的な平日及び 休日の各1日24時間連続
	道路の状況	「大気質」に同じ		
	交通量の状況	「大気質」に同じ		

調査内容		調査方法	調査地域・地点	調査期間・時期
振動	地盤卓越振動数	「道路環境影響評価の技術手法」に示された、振動ピークを1/3オクターブバンド実時間分析器を用いて周波数分析を行い、地盤卓越振動数を把握する方法	4 地点 (「二酸化窒素-道路沿道」に同じ)	適切かつ効果的に把握できる時期
低周波音	低周波音の1/3オクターブバンド音圧レベル、G特性音圧レベル	「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める方法	12地点 (「航空機騒音」に同じ)	年2回(夏冬) 各2日間
水質	浮遊物質(SS)、全窒素(T-N)、生物化学的酸素要求量(BOD)、化学的酸素要求量(COD)	<ul style="list-style-type: none"> ・SS:「水質汚濁に係る環境基準について」付表9に基づく方法 ・T-N、BOD、CODは日本産業規格K0102-45、K0102-21、K0102-17に基づく方法 	4 地点	<ul style="list-style-type: none"> ・SS:年4回(四季)、降雨時3回 ・T-N、BOD、COD:年4回(四季)、防除雪氷材使用時期1回
	流量、流れの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・流量:「水質調査方法」に定める方法 ・流れ:目視で確認する方法 	//	年4回(四季)、降雨時3回、防除雪氷材使用時期1回
	土質(粒度組成、沈降速度)	<ul style="list-style-type: none"> ・粒度組成:日本産業規格A1204に基づく方法 ・沈降速度:日本産業規格MO201-12に基づく方法により試料のSSの濃度を測定し把握する方法 	2 地点	適切かつ効果的に把握できる時期
植物	植物相及び植生の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・植物相:任意踏査法 ・植生:任意踏査法、植物社会学的手法(ブラウン・プランケ法) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施想定区域及びその周辺約200mの範囲及び丘珠川等周辺 ・水生植物: 7地点	年3回(春夏秋)

調査内容		調査方法	調査地域・地点	調査期間・時期
動物	動物相の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類：目撃法、フィールドサイン法、トラップ法、バットディテクターによる方法 ・鳥類（一般）：ラインセンサス法、任意観察法、定点観察法により出現した鳥類を記録する方法 ・鳥類（猛禽類、バードストライク）：定点観察法 ・昆虫類：目撃法、任意採集法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法 ・両生類、は虫類：目撃法、直接観察法 ・魚類：投網、タモ網、サデ網等を用いる捕獲法 ・底生動物、その他の水生動物：Dフレームネット、サデ網等を用いる捕獲法 	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類、昆虫類、両生類、は虫類：事業実施想定区域及びその周辺約200mの範囲 ・鳥類（一般）：4地点 ・鳥類（バードストライク）：4地点 ・鳥類（猛禽類）：4地点 ・魚類、底生動物、その他の水生動物：7地点（「水生植物」に同じ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類、鳥類（一般）、鳥類（バードストライク）：年4回（四季） ・鳥類（猛禽類）：2～8月頃の各月1回2日間連続 ・昆虫類、両生類、は虫類、魚類、底生動物、その他の水生動物：年3回（春夏秋）
生態系		「植物」「動物」に示した現地調査による方法	事業実施想定区域及びその周辺約200mの範囲及び丘珠川等周辺	「植物」「動物」に示した時期
景観	主要な眺望景観の状況	現地踏査及び調査地点において写真撮影を行い、事業実施想定区域方向の眺望の状況を把握する方法	5地点	適切かつ効果的に把握できる時期の年2回（夏冬）各1日
人と自然との 触れ合いの活 動の場	分布、利用の状況 及び利用環境の状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査し目視確認する方法 ・利用の状況：カウンターを用いて利用形態別の利用者数を計測する方法 	5地点	年2回（夏冬）各1日



凡 例

: 事業実施想定区域

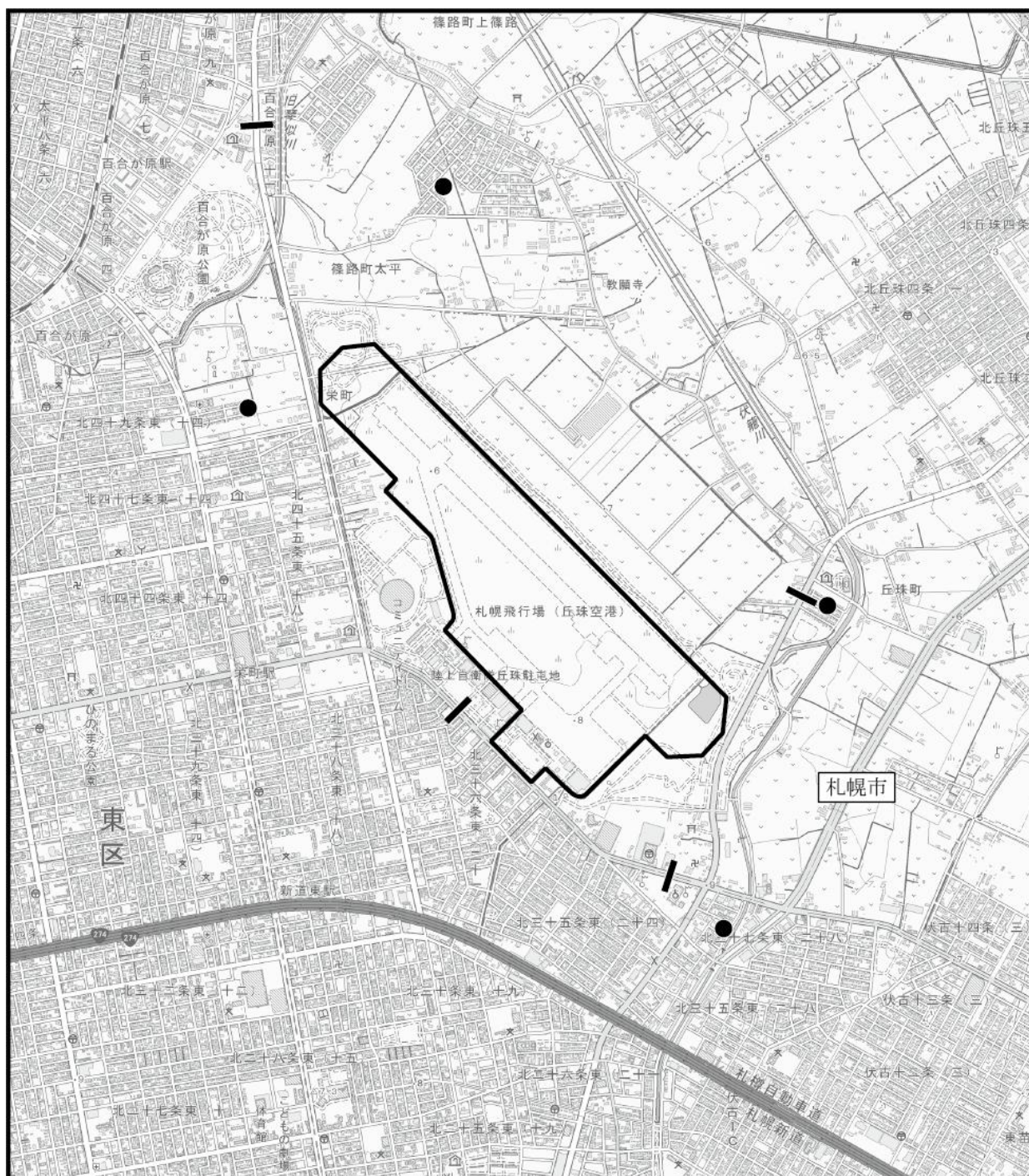
● : 大気質 (一般環境大気)、気象 (風向・風速、気温、湿度)

┃ : 大気質 (道路沿道大気)、気象 (風向・風速、気温、湿度)、道路の状況、交通量の状況

図 6.1-1(2) 大気質に係る調査地点



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2 万 5 千分の 1 を使用したものである。



凡 例

: 事業実施想定区域

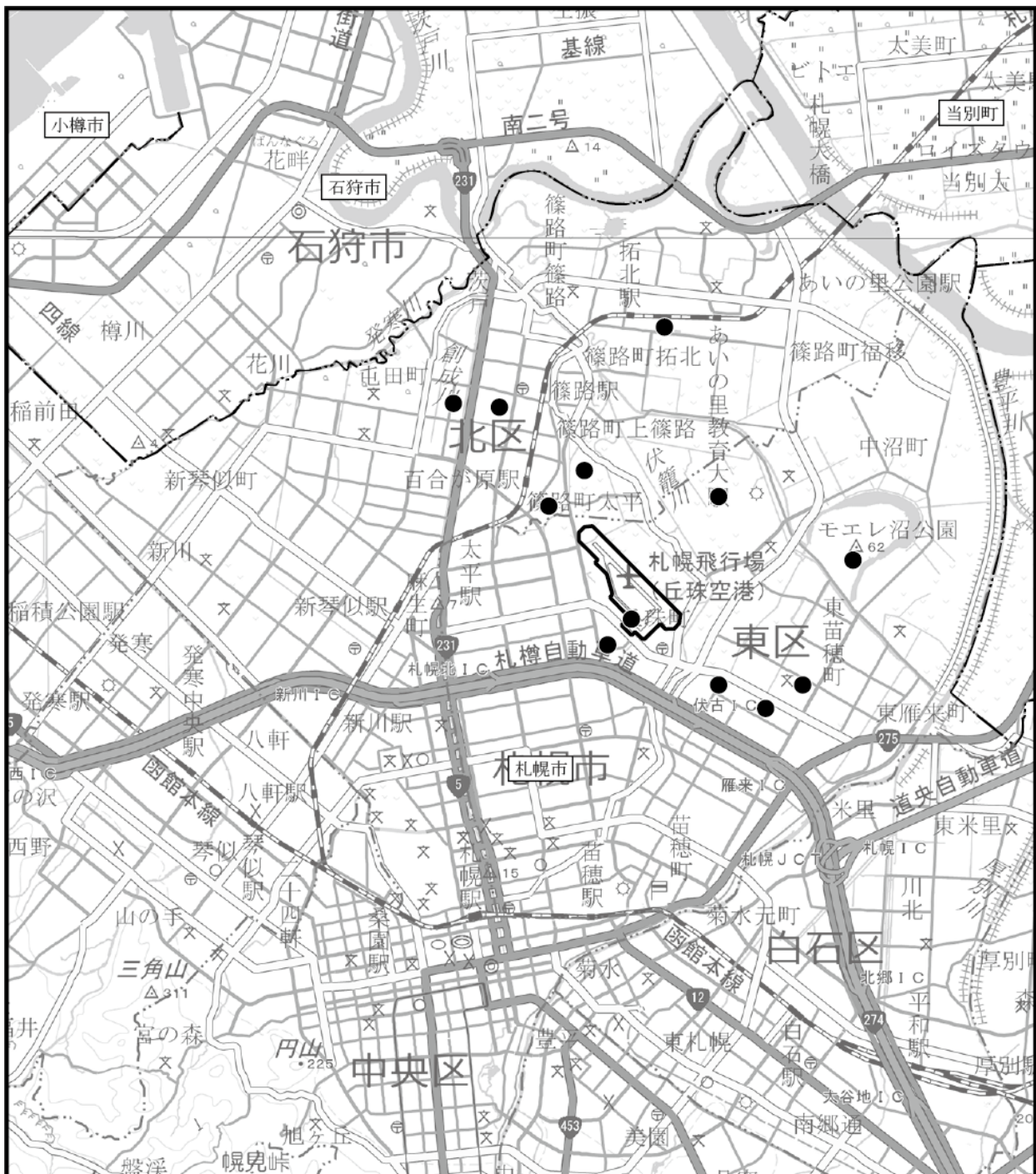
● : 環境騒音・振動

┃ : 道路交通騒音・振動、道路の状況、交通量の状況

図6.2-1(2) 騒音・振動に係る調査地点



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。



凡 例

- : 事業実施想定区域
- : 市町界
- : 航空機騒音・低周波音

図 6.2-1 (3) 航空機騒音・低周波音に係る調査地点

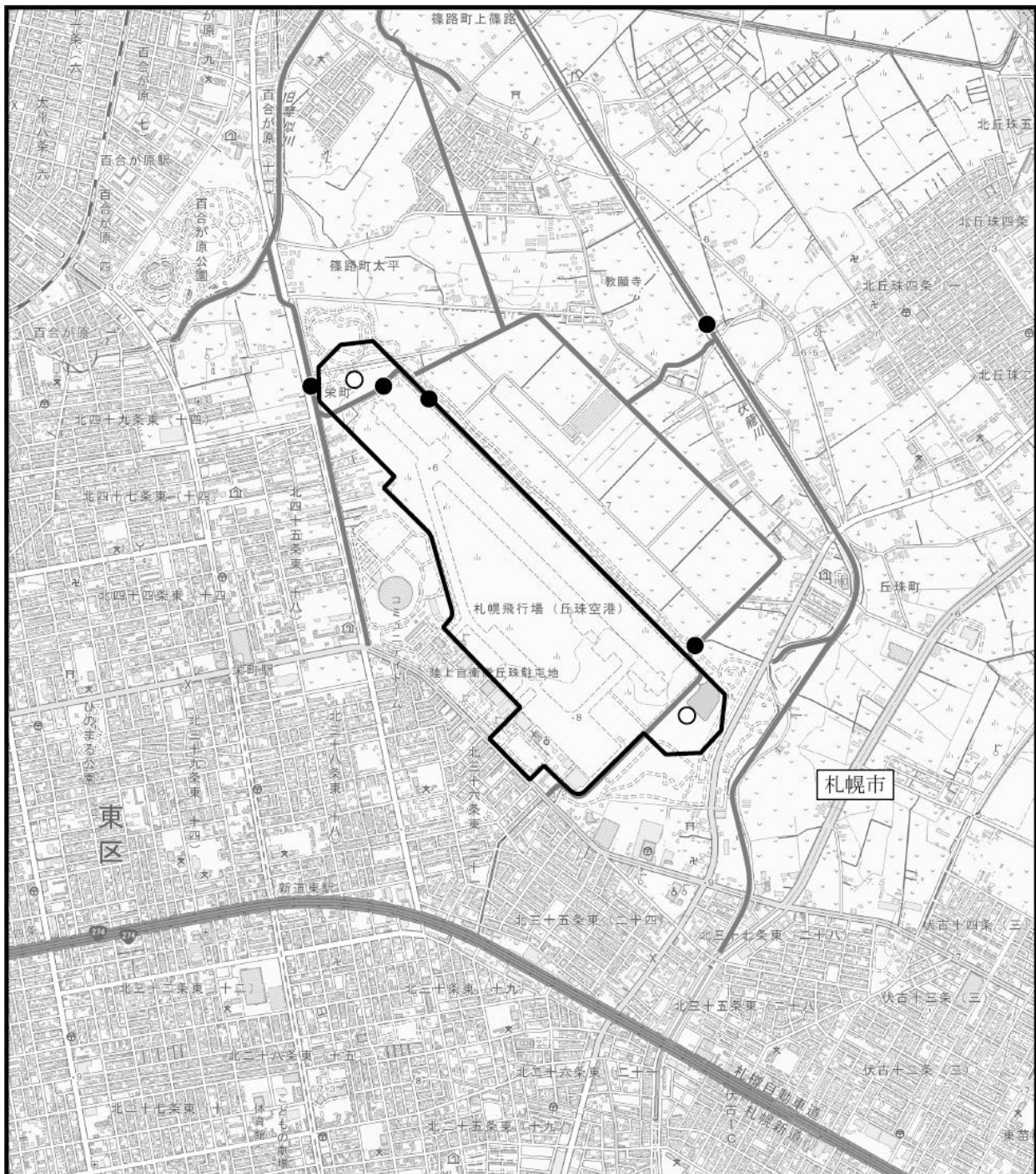
注) 図の調査地点は令和 6 年度行政調査における地点である。
実際の調査は最新年度の調査地点を対象とする。



1:100,000

0 2.5 5km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 20 万分の 1 を使用したものである。



凡 例

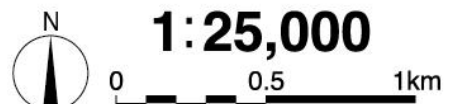
■ : 事業実施想定区域

— : 河 川

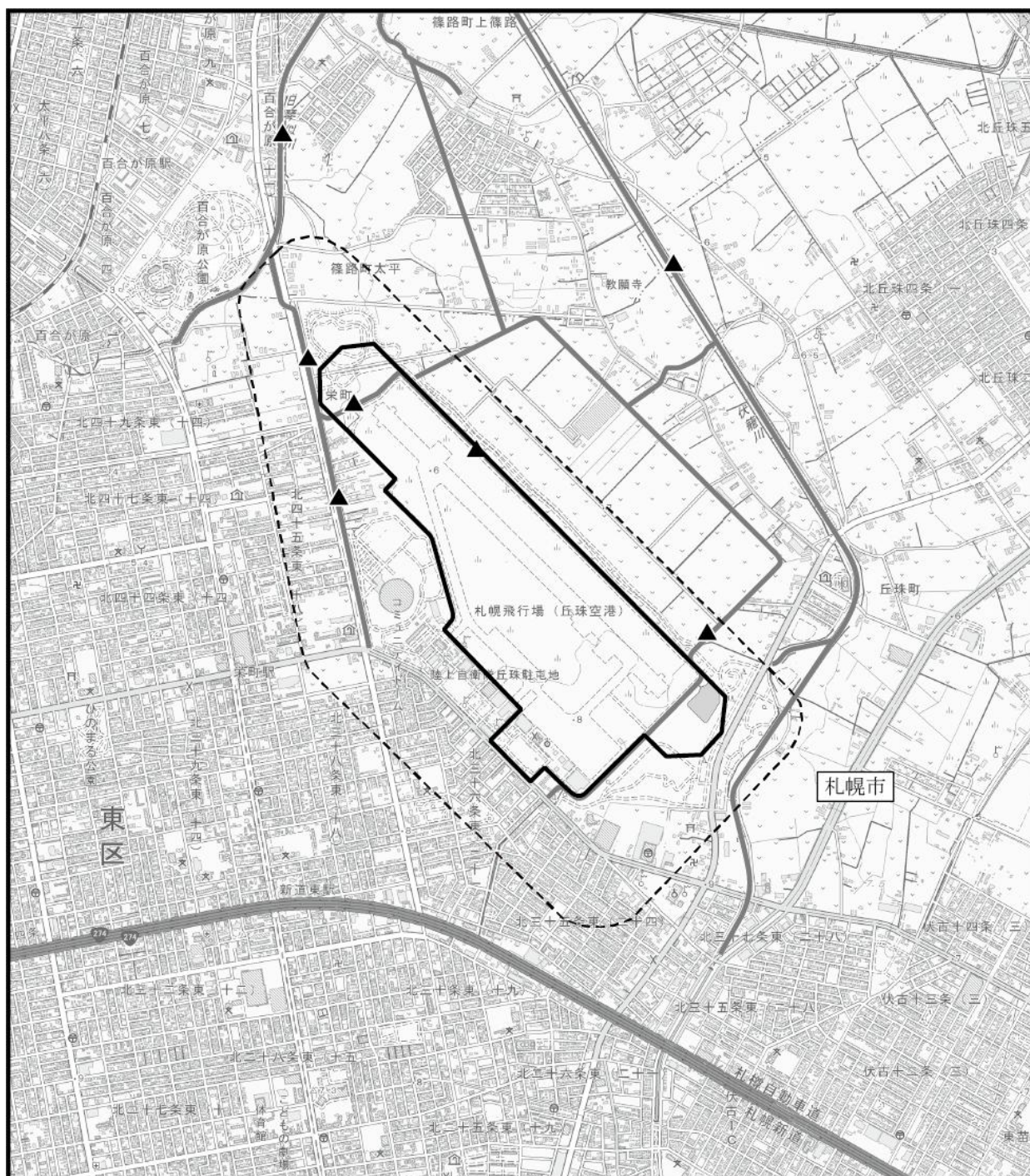
● : 水質 (水の濁り、水の汚れ : SS、T-N、BOD、COD、pH)

○ : 水質 (土質 : 粒度組成、沈降速度)

図 6.5-1 水質に係る調査地点



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2 万 5 千分の 1 を使用したものである。



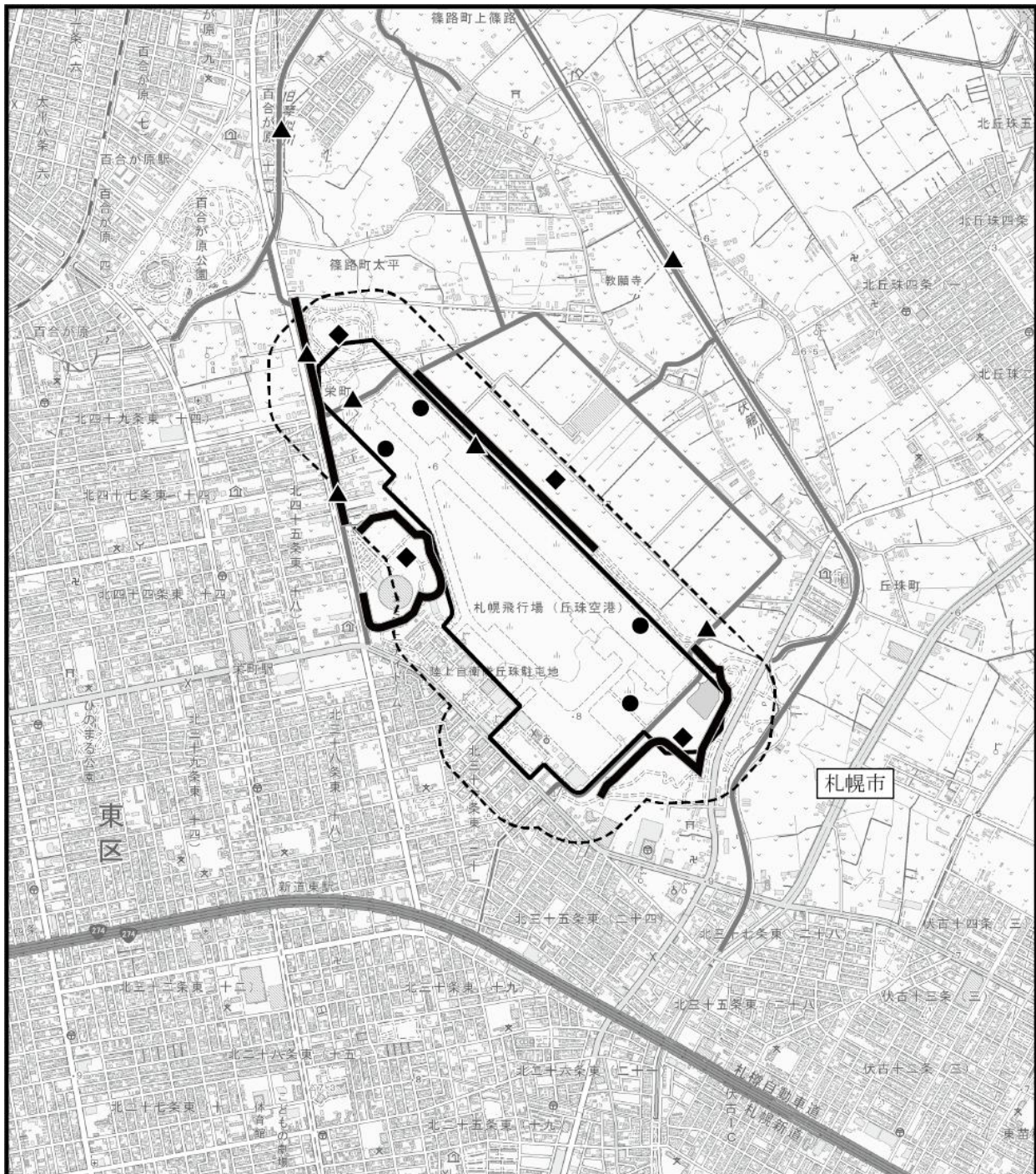
凡 例

- : 事業実施想定区域
- : 河 川
- : 陸生植物 (植物相、植生)
- : 水生植物 (植物相、植生)

図 6. 6-1 植物に係る調査地点



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2 万 5 千分の 1 を使用したものである。



凡 例

図 6.7-1 (1) 動物に係る調査地点

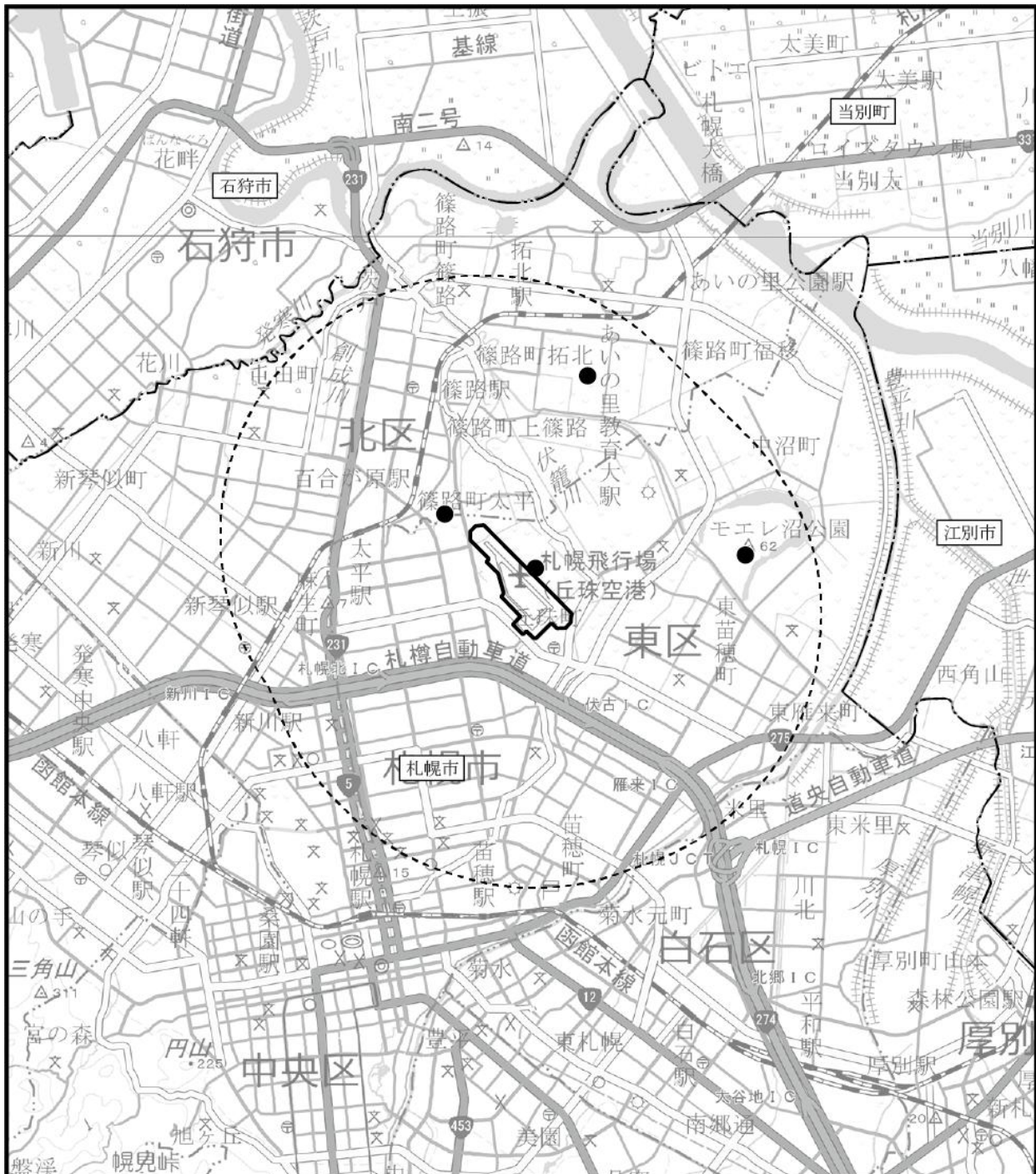
- : 事業実施想定区域
- : 河 川
- : 陸生動物（哺乳類、鳥類、両生類、は虫類、昆虫類）
- : 陸生動物（鳥類（一般））定点
- : 陸生動物（鳥類（一般））ラインセンサス
- : 陸生動物（鳥類（バードストライク））定点
- : 水生動物（魚類、底生動物、その他の水生動物）



1:25,000

0 0.5 1km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。



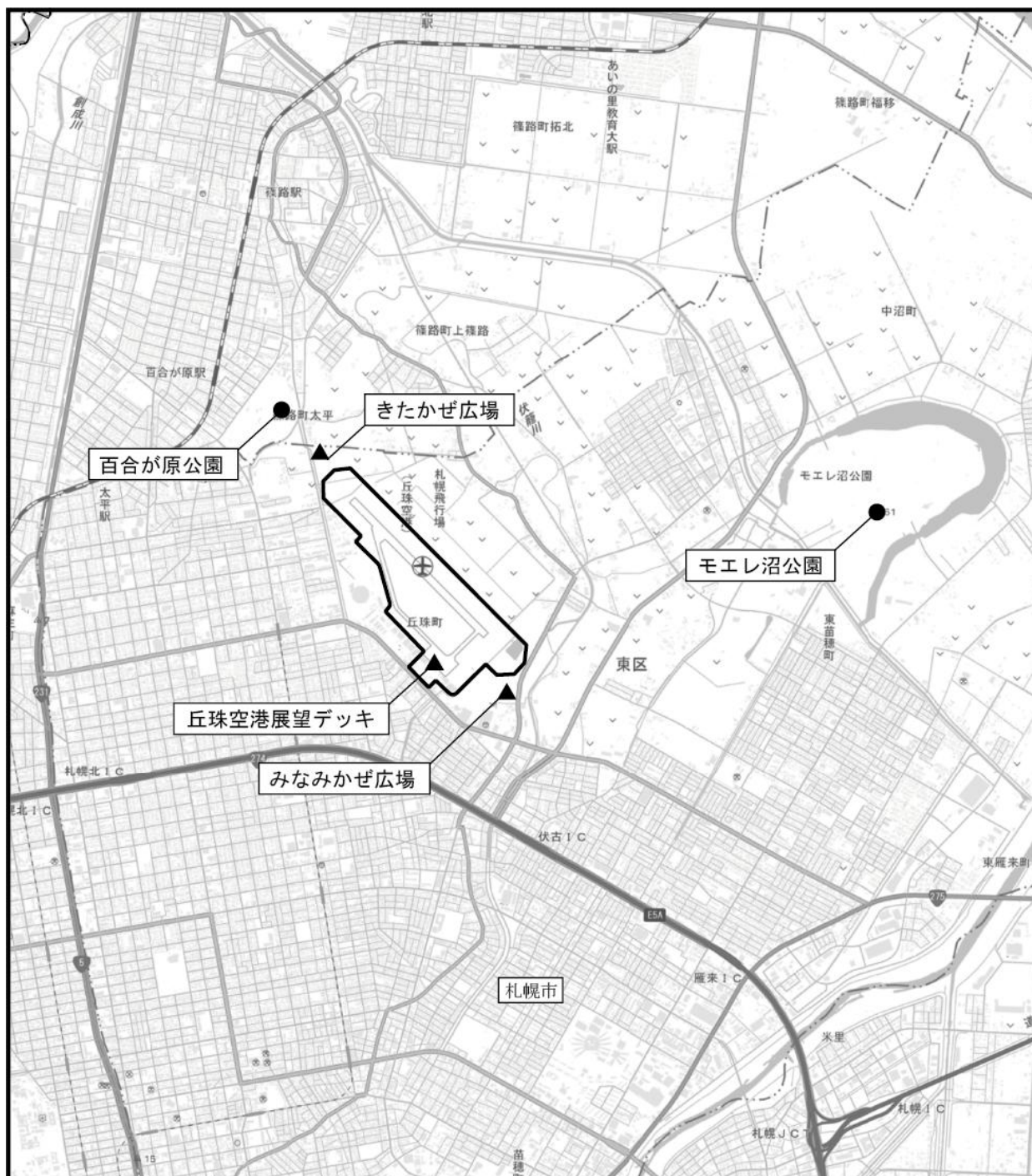
凡 例

- : 事業実施想定区域
- : 市町界
- : 陸生動物（鳥類（猛禽類））
- : 陸生動物（鳥類（猛禽類））定点



図 6.7-1 (2) 動物に係る調査地点

この地図は、国土地理院発行の電子地形図 20 万分の 1 を使用したものである。



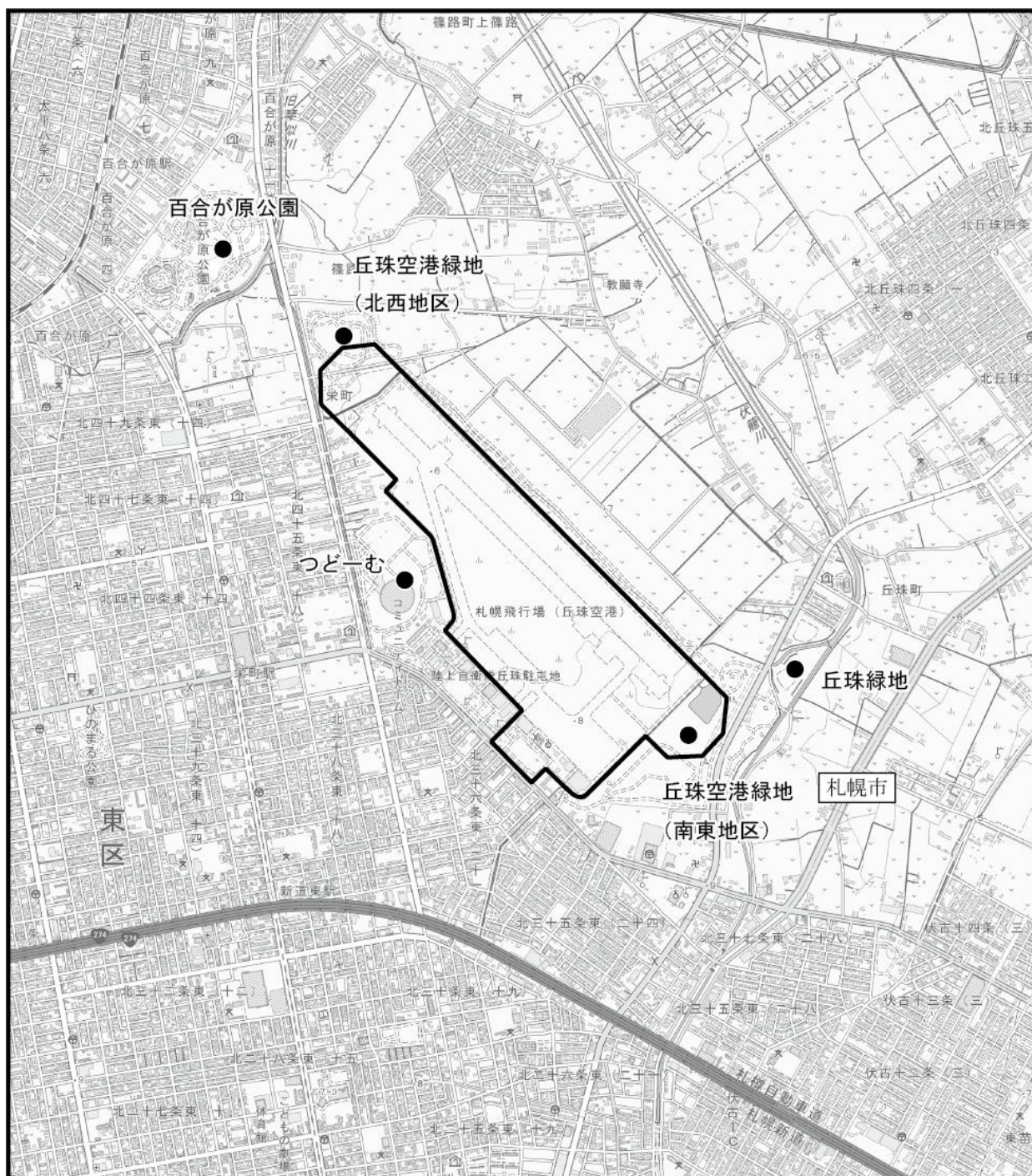
凡 例

図 6.9-1 景観に係る調査地点

- : 事業実施想定区域
- : 市町界
- : 主要な眺望点 (眺望景観の状況)
- ▲ : 主要な視点場 (眺望景観の状況)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 20 万分の 1 を使用したものである。



凡 例

図 6.10-1 人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査地点

: 事業実施想定区域

● : 人と自然との触れ合いの活動の場



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。